多賀台小

# 自分の考えをもち、進んで表現する子の育成

## ～児童の思考に寄り添う授業づくりを通して～

（３年計画の１年次）

校長　　梅　内　太　郎

### １　研究主題について

本校では、教育目標として「心豊かに　たくましく」、努力目標として「進んで学ぶ子」「思いやりのある子」「体をきたえる子」を掲げ、問いをもち、その解決に向けて主体的に学ぶ児童、また、自分の考えを広げたり深めたりするために、目的意識をもって対話的な学びに取り組む児童の育成を目指している。

昨年度は、「問いをもたせ、主体的に問題解決に取り組ませる課題設定や発問」「思考の流れが分かり、対話的な学びを促す板書や働きかけ」「自己の変容を自覚できるような振り返り」についての研究を進めてきた。児童の実態把握に基づいた課題設定や課題提示、発問の工夫を行い、一目見ただけで授業の流れや友達の考えが分かる板書に取り組んだことにより、児童は意欲的に学習に取り組めるようになった。しかし、対話的な学びを促す上で必要な、児童の考えを引き出したり、揺さぶったりする指導者の働きかけの工夫については課題が残った。また、振り返りを行うことの効果を実感することはできたが、継続した振り返りの時間を確保できず、効果的な振り返りの方法を確立するまでには至らなかった。

そこで、これらの成果と課題から、今年度は、「児童の思考過程を大切にした授業づくり」を土台とし、これまで以上に児童の思考に寄り添った授業づくりの研究を進めていく。まずは、児童の問いを引き出す学習課題を設定する。事前テストの結果などをとおした実態把握を基に、児童が意欲的に考えることのできる課題を提示したい。次に、児童が主体的・協働的な課題解決に取り組めるような働きかけを工夫する。児童の様子を観察し、その状態に合わせた適切な働きかけをすることによって、一斉やグループなどの形態を問わず、主体的・協働的な学びが実現できると考える。そして、児童が自己の変容に気付くことができる振り返りを工夫して行うことにより、児童の学びを深め、「わかった！できた！身についた！」を実感させたいと考える。

### ２　研究のねらい

児童が問題を解決する際に、児童の思考に寄り添うことを意識した授業づくりを行うことが、自分の考えをもち、進んで表現する子の育成に有効であるということを授業実践を通して明らかにする。

### ３　研究仮説

児童の思考に寄り添う授業づくりのため、児童の問いを引き出す学習課題を設定し、児童が主体的・協働的に課題を解決できる働きかけを工夫した授業を展開する。そして、児童が自己の変容に気付くような振り返り活動を行うことにより、自分の考えをもち、進んで表現する子を育成できる。

### ４　研究内容

(1) 問いを引き出す学習課題の設定
(2) 主体的・協働的に課題を解決させる働きかけ
(3) 自己の変容に気付かせる振り返りの工夫

## ５　研究の経過

(1) 研究仮説に基づく授業研究

| 月 | 日 | 学年・授業者・題材名・講師 |
|---|---|---|
| 7 | 12 | 第１回授業研究（２学年）永澤　舞梨　国語「スイミー」<br>講師：八戸市立是川小学校　校長　佐々木　宏恵　氏 |
| 9 | 21 | 計画訪問（指導案を作成し指導していただいた。） |
| 11 | 2 | 授業公開（１学年）児玉　友絵　国語「じどう車くらべ」 |
| 11 | 8 | 授業公開（６学年）福士　貴人　理科「てこのはたらき」 |
| 11 | 12 | 第２回授業研究（４学年）寺下　真彩子　社会「かわいた大地に水を引く」<br>講師：八戸市教育委員会教育指導課　主任指導主事　大野　勉　氏 |
| 11 | 17 | 授業公開（３学年）類家　直人　理科「物の重さをくらべてみよう」 |
| 12 | 1 | 授業公開（５学年）吉田　彰子　道徳「生きる力を引き出す笑い」 |
| 12 | 2 | 授業公開（すずかけ）佐々木　禅　算数「お金を工夫して代金をはらおう」 |
| 12 | 16 | 授業公開（わかば）伊藤　直子　自立活動「こんなときどうするの？」 |

(2) 一般研修

| 月 | 日 | 内容・講師・概要等 |
|---|---|---|
| 5 | 26 | 学力検査(ＣＲＴ)の分析・考察 |
| 6 | 22 | 救急救命講習<br>講師：日本赤十字社水上安全法指導員　南郷屋内運動場　館長　下田　尋通　氏 |
| 8 | 25 | 県学習状況調査の採点・分析・考察 |
| 9 | 22 | 基本的技能や投動作の運動についての研修<br>講師：本校教諭　類家　直人　　本校講師　藤井　佑太 |
| 10 | 13 | 図画工作の指導についての研修　講師：本校教頭　種子　麻佐子 |
| 10 | 20 | １人１台端末の活用<br>講師：八戸市総合教育センター　主任指導主事　石井　一二三　氏 |
| 11 | 17 | 音楽の指導についての研修　講師：本校教諭　菅原　弥生 |

## ６　研究の成果

(1) 問いを引き出す課題の提示や発問の工夫をすることにより、児童は意欲的に課題に向かい主体的に学習に取り組むことができるようになってきた。また、自分なりの考えをもたせてから問題解決に向かわせることができた。

(2) 「主体的・協働的な課題を解決させるための働きかけ」が意識されたことで、自分の考えを他者と比較しながら話し合う場面を設定し解決に向かわせることができた。また、ICT を活用して考えを交流し合う活動も多く見られた。

(3) 学級担任全員が研究主題に沿った提案授業を公開し、成果や課題を交流したことが、授業力の向上につながった。

## ７　研究の課題

(1) 主体的・協働的に課題を解決させるために対話場面を設定し、考えや意見を交流し合うことはできたが、考えを広げたり深めたりするような活動には至らなかった。深い学びを目指し、話し合う土台となる多様な考えを引き出すためのしかけや発言をつなげる指導力など、児童が対話的に学習を進めるための工夫をしていく必要がある。

(2) 主題を達成させるために、児童が自分事として課題を捉え、必要感や切実感をもって問題解決に向かうような授業改善を行い、「わかった！できた！身についた」が実感できるような授業づくりをしていく必要がある。

（記入者　児玉　友絵）